

2021年4月

日本国内の公文書館における医療アーカイブスの所蔵状況に関する調査

藤本大士

日本学術振興会特別研究員 PD（受入機関：京都大学大学院）

● 背景

・日本国内の大学医学部や医療機関では日々多くの医療に関する記録がつくられている。そのうちの一部は公文書館へと移管され、医療アーカイブスとなっている。

・しかし、全国の公文書館でどれほど医療アーカイブスが所蔵されているかはいまだ十分に分かっていない。そこで、現在、公文書館でどれほど医療アーカイブスが所蔵されているかを確認することを通じ、今後、日本で医療アーカイブスの整備を適切に進めていくための課題や方針を考える手がかりを得たい。

● 目的

・現在、日本国内の公文書館において、どれほど医療アーカイブスが所蔵されているかを調査する。今回は医療アーカイブスのなかでもとくに診療録（カルテ）に関する調査を中心におこなう。

● 対象

・公文書館がある都道府県 40 カ所と政令都市 9 カ所の全 49 カ所。

● 方法

- ・2020年11月～2021年2月にかけて、各公文書館の検索システムおよび目録を用い、診療録（カルテ）やそれに類するもの（病床日誌など）が所蔵されているかどうかを調べた。
- ・公文書館のリストアップにあたり、国立公文書館のホームページに掲載されている情報を参考にした。

● 結果

- ・診療録（カルテ）を所蔵する公文書館を10館みつけることが出来た。このうち、①都道府県内あるいは市内の医療機関から部分的に移管された診療録と、②私文書・古文書に含まれる診療録の2つがあることがわかった。

① 都道府県内あるいは市内の医療機関から移管された診療録（6館）

- ・神奈川県立公文書館：母子保健センターの小児科・婦人科の診療録（昭和50年代後半～）など。
- ・鳥取県立公文書館：鳥取県立鳥取療育園のカルテ（1976年度）など。
- ・島根県公文書センター：検診カルテ（昭和40年代後半～）など。
- ・佐賀県公文書館：診療記録（1978年）。
- ・川崎市公文書館：高津区役所衛生課の診療録（2003年度）など。
- ・大阪市公文書館：心身障がい者リハビリテーションセンターの診療録（1990年～）など。

② 私文書・古文書に含まれる診療録（4館）

- ・埼玉県立文書館：小林（正）家文書内の診療録（小林医院作成、1904年）。
- ・福井県文書館：藤野巖九郎家文書内の診療簿（1923年）。
- ・京都府立京都学・歴彩館：明石博高文書内の診療記録（1885年）。
- ・沖縄県公文書館：診療録（琉球政府八重山病院作成、時期不明）など。

- ・病床日誌を所蔵する公文書館を3館みつけることが出来た。

- ・福岡県共同公文書館：陸軍病床日誌（1945年）など。

- ・沖縄県公文書館：国立長崎病院などの病床日誌など。

- ・広島市公文書館：狩小川村（高陽町）・役場文書内の「病床日誌」（1935年）。

- 考察

- ・インターネット上の情報のみからでは、医療アーカイブスの公開状況の詳細を知ることができなかった。そのため、今後は医療アーカイブスを所蔵する公文書館に公開状況や公開にかかる問題などについて、直接インタビュー調査をおこなう必要があるだろう。

- ・検索システムや目録にはまだ掲載されていない、未整理の医療アーカイブスがある場合も考えられる。そのため、今後は全国の公文書館に対して医療アーカイブスの所蔵状況に関するアンケート調査をおこなう必要があるだろう。